

イノシシ捕獲に係る取組状況について（速報）

1 野生イノシシの捕獲頭数の推移（資料1-1、表1）

2021年度の野生イノシシの捕獲頭数（速報値）は2月末時点で、豊橋市は101頭、田原市は113頭と豚熱による影響を受ける前の2017年度と比べ、4～5割程度に減少し、直近5年間で最も少ない結果となった。

地区ごとに見た場合は、大山山塊や宇津江地区、豊橋市北部は昨年度と比べ捕獲頭数の減少が見られる一方で、豊橋市南部を含む表浜海岸沿いについては、捕獲頭数は横ばいに推移しており、他地区のような減少は見られていない。

表1 野生イノシシの捕獲頭数の経年推移（狩猟による捕獲を除く）（頭）

市／年度	2017	2018	2019	2020	2021 ^{※※}
豊橋市	210	251 (120%)	220 (105%)	160 (76.2%)	101 (48.1%)
田原市	275	271 (98.5%)	492 (179%)	270 (98.2%)	113 (41.1%)
計	485	522 (108%)	712 (147%)	430 (88.7%)	214 (44.1%)

※括弧内の値は2017年度比を示す。

※※2月末時点速報

2 捕獲イノシシの年齢査定の結果（資料1-2）

生息頭数が減少すると、捕獲頭数も減少すると考えられる。イノシシは生後1年までの死亡率が高いといわれているため、生息頭数の指標としては、生後1年を経過している成獣の捕獲状況で判断するのが望ましいと考えられる。

2021年度、捕獲された野生イノシシの歯列による年齢査定の結果、成獣の割合は2月末時点で、豊橋市で約44.0%、田原市で約43.4%といずれも昨年度と比べ高くなっており、成獣の捕獲が進んでいる。

また、成獣の捕獲頭数が年々減少していることから、わなに寄りつかない学習した個体もいると考えられるが、捕獲を実施している周辺での生息頭数は減少している可能性がある。

更に生息頭数を減らしていくためには、引き続き、成獣の捕獲を推進していく必要がある。

3 野生イノシシの目撃・痕跡情報（表3）

2021年度、地元市役所等に寄せられた野生イノシシの目撃情報は、2月末時点で14件と、2019年度、2020年度と比べ減少している。

表3 野生イノシシの目撃・痕跡情報の経年推移 (件)

市／年度	2019	2020	2021※
豊橋市	11	20	9
田原市	8	0	5
計	19	20	14

※2月末時点

4 その他

2021年10月に県内で約1年ぶりに野生イノシシの豚熱陽性個体が確認され、2022年2月末時点で計7件確認されている。

県内では、豚熱感染が確認された後、一度捕獲頭数が減少し、その後、回復（増加）する傾向が見られている。最も早く（2018年12月～）豚熱感染が確認された尾張北部地域は2020年度にこの傾向が見られ、2021年度は西三河地域や豊橋市に隣接する地域においても、同様の傾向が見られている。

県全体の捕獲頭数についても、2018年度以降年々減少していたが、2021年度は2020年度と比べ増加する見込みである。